

西多摩医師会報

第188号 昭和63年 8月

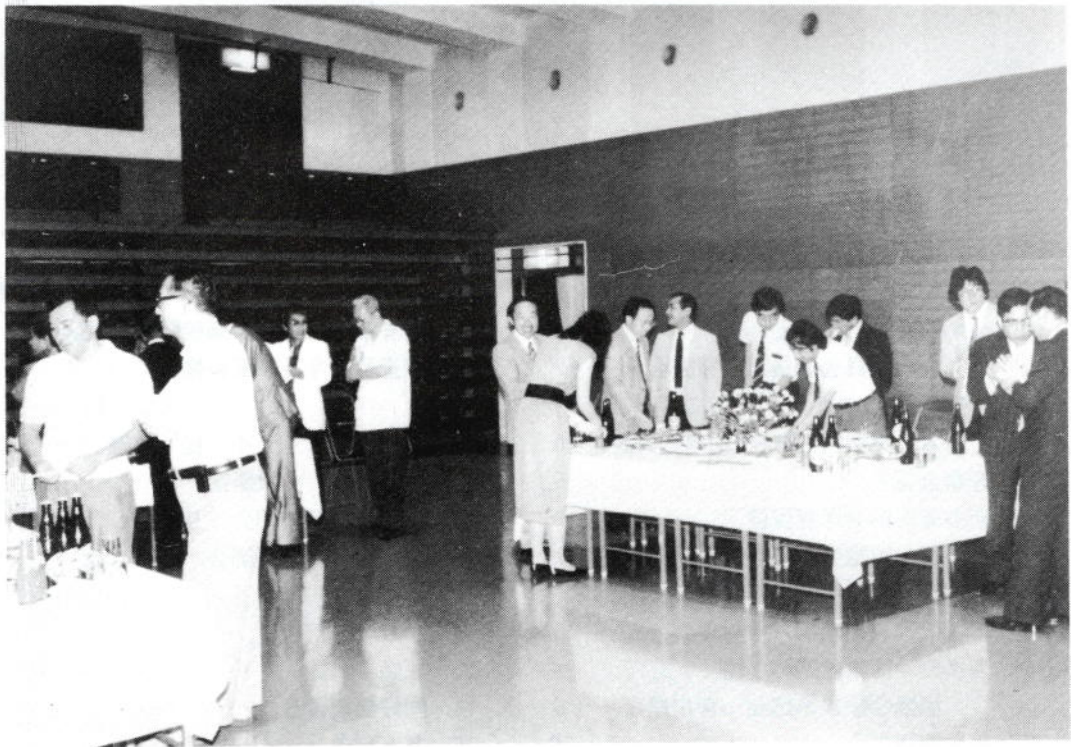


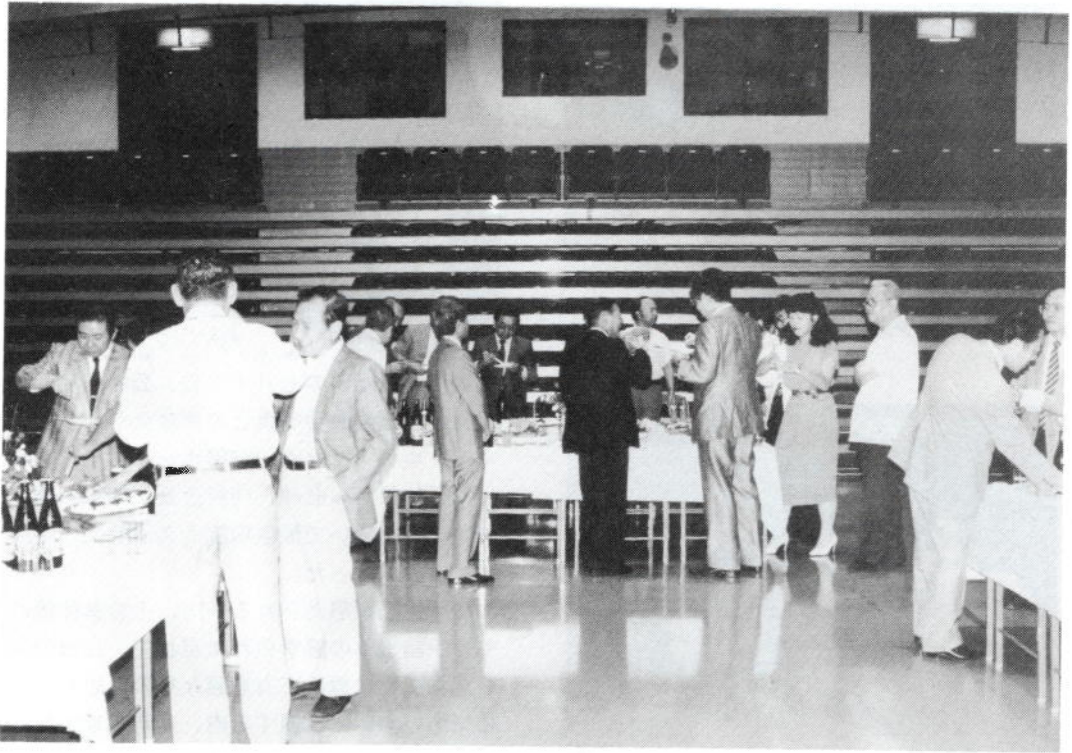
保健相談センター 秋川健康会館

目 次

	頁		頁
1. 公的病院各科医長と 各種委員会委員との懇談会	2	8. 西多摩地区小、中、高校眼科校医実態 調査及び今後の眼科検診について	11
2. 学術講演会 ストレス潰瘍について 日本大学医学部教授 松尾裕先生	5	9. ハーフ・エッセイ 堤 次雄	12
3. 理事会報告	6	10. 銷夏雜詠 小泉新策	13
4. 西多摩医師会医療保健 衛生協議会より報告事項	7	11. 市町村医師会紹介シリーズ 秋川市医師会 植田 稔	13
5. 学校医、産業医各部報告 湯川理事、井村理事	8	12. 新人紹介	15
6. 西多摩地区救急業務連絡 協議会設立準備会 宮川理事	8	13. ブロックだより	15
7. 医政連報告	10	14. 医師会日誌	17
		15. 同好会だより	18
		16. あとがき	19

公的病院各科医長と各種委員会委員との懇談会







梅雨のさなかの七月十二日、公的病院各科
 医長と各種委員会委員との懇談会が、羽村町
 コミュニティセンター三階ホールで午後七時
 より行われた。会は、西村会長の開会の挨拶
 に始まり、次いで福生病院大久保院長の乾杯
 で懇談会に入った。

病診連携が唱えられる一方、その具体策に
 やや手詰まりの感を免れぬ現状で、忌憚の無
 い意見交換は極めて有意義なものと思われ、
 和気あいあいと歓談する内、9時過ぎ大塚副
 会長の閉会の辞で幕となった。

参加人数は、公的病院から18名、西多摩
 医師会委員が30名であった。

リポート 真鍋 勉

◇病院側出席者

- | | |
|-----------|-------|
| 公立阿伎留病院 | 浅野 孝 |
| 〃 | 馬詰良比古 |
| 福 生 病 院 | 島田 肇 |
| 〃 | 堀井 昭 |
| 〃 | 牧野 弘志 |
| 青梅市立総合病院 | 山田 忠義 |
| 〃 | 内田 智 |
| 〃 | 高野 和章 |
| 高 木 病 院 | 水口 嘉治 |
| 福 生 病 院 | 大久保憲二 |
| 〃 | 辛 悦基 |
| 阿 伎 留 病 院 | 平沼 俊 |
| 〃 | 峰川 宏一 |
| 〃 | 佐野 茂男 |
| 〃 | 徳橋 泰明 |
| 青梅市立総合病院 | 坂本 保己 |
| 〃 | 森 伸彦 |
| 福 生 病 院 | 諸角 強英 |

◇医師会側出席者

- | | |
|-------|-------|
| 進藤 淳 | 吉野 住雄 |
| 島田 芳明 | 笹木 隆夫 |
| 西村 邦康 | 堤 次雄 |
| 大塚 栄二 | 林 實 |
| 波田野洋夫 | 唐橋 善雄 |
| 鈴木 穆 | 内山 大 |
| 真鍋 勉 | 稲垣壮太郎 |
| 足立 卓三 | 横田 卓史 |
| 池田 聖 | 木野村幸彦 |
| 大塚 涉 | 田代 洋 |
| 道又 正達 | 湯川 文朗 |
| 宮川 栄二 | 渡辺 良友 |
| 石井 好明 | 百瀬真一郎 |
| 松原 貞一 | 小林 康光 |
| 秋山 静夫 | 小林 杏一 |

以上 会場到着順 敬称略

「阿伎留病院にて学術講演会開催さる」

阿伎留病院において、当医師会主催の学術講演会が、初めて行なわれた。テーマが、ストレス潰瘍ということで、病院内外から多くの聴衆を集め、開催された。講演者は、日本大学第3内科教授の松尾裕先生であり、先生は、「消化管ホルモンと自律神経系の協働」でベルツ賞、アメリカン・カレッジ・ガストロ・エンテロロジイ・ローラー賞の最優秀賞を受賞されるなど、この分野では、日本の第一人者である。講演は、先ずストレスの話からはじめられた。ストレスとは、精神的、肉体的刺激に対する体の反応で、カナダの学者、セリエが、その概念を提唱した。このストレスに適応できないとき、不適応症候群として、胃潰瘍になったり、心筋梗塞になったりする。老人は、何の刺激もない養老院に入ると直ぐボケてしまい、また、姑は家の中で嫁と争っていた方が、長生きするという例をあげ、ストレスは、生きる上で重要であり、それが、大きくなったり、長く続くことが問題であると話された。次にアメリカの有名な精神神経学者のウォルフ博士の報告を紹介された。戦争で腹部貫通銃創をうけた、患者の胃を外から数年間観察したところ、精神状態と胃粘膜には、密接な関係があることがわかった。不安、恐怖で胃粘膜は、青くなり、美味しいものをみせると赤くなる。そして、病理学者のロキタンスキーは「潰瘍は、脳の病である。」と言い、脳外科の大家であるクッシングは脳腫瘍の手術例で、手術はうまくいったが、胃出血で死亡した例をあげ、クッシング潰瘍と呼んだことなど、潰瘍の成因は、脳の調節下にあり、潰瘍と脳との間には、緊密な関係があると強調された。先生は、この発表に興味をもち、この道にすまされたと自分の逸話を披露された。潰瘍の大きな成因は、胃液であり、これは、脳からの刺激が迷走神経を介して胃に行き、分泌されるが、主にガストリンというホルモンの支配をうける。ガストリンは、アルコールとスープ（アミノ酸）のみに反応し、内分泌される。胃液によって、胃、

十二指腸の粘膜が自己消化され潰瘍がつけられ、それから消化性潰瘍といわれる所以である。それ故、胃潰瘍は、胃液によってつけられ胃液のないところには潰瘍はできないということである。胃液によって潰瘍はつけられるが正常な胃は胃液が分泌されても決して自己消化つまり潰瘍をつくらない、それは胃粘膜には、胃液にとけない防禦する因子があるのだらうということが解った。それは、血流と粘液であり、これに関係しているのは、今、注目をあびているプロスタグランジン（PG）であろうと話された。そして、自分の研究テーマ或いは、ライフ・ワークともいえる潰瘍の発生メカニズムについて力説された。

次に先生は、潰瘍治療の現状について、話された。ヒポクラテス時代から胃痛は、アルカリ水（温泉水）を飲むと、治ると言われ昭和20年代までは、制酸剤（重曹）が主流であった。

また、胃液分泌を止めるには、源の脳からの神経伝達をとめれば良いことから、遮断剤としての抗コリン剤が開発された。

そして、その後1932年に、H-2受容体拮抗剤が出現し、潰瘍の治療は飛躍的に向上、今日では、これが潰瘍治療の基本となった。厚生省の治療基準の6~8週で自然治療率40%が、H-2受容体拮抗剤の使用により、胃潰瘍は、8週で80%以上、十二指腸潰瘍は、6週で80%以上の高い治療率となった。しかしその反面中止後の再発率が高いことが問題となり、この再発を予防することが今後の課題であると訴えられた。

そして、終りに将来の潰瘍治療の展望におけるPG誘導体やプロトンポンプ阻害剤の開発への期待と研究への抱負について、熱っぽく話され、夜7時半から始まり約2時間に及ぶ、講演を終えた。

（文責 公立阿伎留病院 平沼俊）

理事会報告

6月定例理事会

昭和63年6月21日(火) P.M. 7:30

西多摩医師会講堂

議事録署名人 { 眞鍋理事
宮川理事

1. 報告事項

(1)都医地区医師会会長協議会報告(西村会長)

1. 昭和62年度生涯教育申告書集計結果について (別掲)

2. 東京都医療計画公示前における病院開設等の取り扱いについて

厚生省健康政策局長より都道府県知事に対して以下の如く通知が出された。

これ迄出された「かけ込み申請」に対処するための課長通知の徹底を図ることと、更に新たに開設許可を与えた病院であっても6ヶ月以内に病院施設建設に着手していない場合についても開設許可の返上の指導又は開設許可の取消処分を行うこと。加えてまた既存の病院でも医療従事者の著しい不足、病床利用率の極端な低下の状態にある場合には病床数の変更申請を行うよう指導すること等を求めている。

3. 産業医台帳作成に伴う調査依頼について

4. 医師税制について

(2)医療協報告 (大塚副会長) 別掲

(3)都医師会学校医会15回評議員会報告 (湯川理事) 別掲

(4)その他

1. 学校健診後の眼科受診対策(眞鍋理事)
耳鼻科受診対策(内山監事)

2. 西多摩地区救急業務連絡協議会 (宮川理事)

3. 青梅看護専門学校入学式出席報告 (西村会長)

4. 三多摩地区医師会広報研究会 (大嶽理事)

7月号医師会報掲載済。

2. 協議事項

(1)7月8月の日程について -承認-

(2)入退会会員 -承認-

(3)医療経済動態調査野モニター病院
秋留台病院より大久野病院に変更
-承認-

(4)多摩医学会の役員改選について
前年通りとする。 -承認-

(5)青梅三慶病院(非医師会員)の増床問題
について、理事会に来ていただき事情を
聞いてから地域医療委員会に審議を委託
する。 -承認-

(6)目白第2病院の増床問題、地域医療委員
会で検討していただく。 -承認-

(7)一般健診事業についてのアンケート調査
を各自治体地域の医師会長に願ひする。
-承認-

3. フリートーキング

西多摩医師会地域医療委員会植田稔委員長
をお招きして、東京都保険医療計画調査会
最終報告案の中から必要病床数等の算定と
特例についての説明をしていただいたあと、
西多摩地区に於いて一般病床が充足されて
いるか否か、各理事より意見の交換が行わ
れた。充足されている、されていない各種
の意見が出された。

7月定例理事会

昭和63年7月8日(金) P.M. 7:30

西多摩医師会館講堂

議事録署名人 { 眞鍋理事
宮川理事

1. 報告事項

(1)第192回都医師会臨時代議員会報告
大塚副会長

(2)西多摩地区救急事務連絡協議会準備会報
告 宮川理事 別掲

(3)都庁との懇談会報告 林理事

(4)地域医療委員会報告(増床問題について)
林理事

秋留台病院増改築について

西多摩医師会会長より昭和63年6月3日
地域医療委員会に諮問。

昭和63年6月3日, 6月9日, 6月23
日委員会に於いて審議。

答申…増床は認められない。

青梅三慶病院増改築について

西多摩医師会長より昭和63年6月24日
地域医療委員会に諮問。

昭和63年6月27日委員会に於いて審議。

答申…増床は認められない。

(5)各部報告

産業医部 井村理事 別掲
福祉部…青梅税務署の定期異動で、署
長、総務部長、所得税第二部
門統括官(医師会担当)が転
出される。 大嶽理事

2. 協議事項

(1)五日市、福生保健所地域精神衛生連絡協
議会の推薦について

五日市保健所…大塚、鈴木、進藤、内
田、植田の諸先生(南
部ブロックで内定)。

福生保健所…東部ブロックに一任。
一承認一

(2)秋留台病院、青梅三慶病院増床について
西多摩医師会地域医療委員会答申通り
に決定することで賛否をとる。

賛成8 反対3 保留4

従って、増床は認められない。

一承認一

(3)その他

1.入退会会員 一承認一

2.現在入院治療中の古屋事務長の給与の
支給について

経理部長に一任する。 一承認一

3. フリーターキング

定款施行細則の見直しについて

定款施行細則の見直しの時期がきてい
るという意見が大多数であった。

一医政連一

(1)都医政連支部庶務担当役員及び事務長連
絡会について 大嶽会計 別掲

(2)西多摩医政連役員分担について

委員長西村会長、副委員長は松原副会長、
委員は各理事、会計は大嶽理事、又委員
の中での職務担当は足立委員、唐橋委員、
その他2~3人で行う。

西多摩地区医療保健衛生協議会
(医療協)報告

大塚 渉

昭和63年6月21日、秋川市健康会館に於い
て自治体より衛生、健康課長9名、医師会よ
り8名出席。

議題

①子宮体癌検診について

子宮頸癌検診についてはすでに実施され
ている所であるが、体癌の増加に伴い東母
西多摩支部(近藤肇支部長)より体癌検診
の要請があった。三多摩ではすでに東村山、
稲城が実施しており、八王子、多摩も実施
予定との事である。本会では、羽村が実
施予定であり、他の自治体も、他地区の動
向を見ながら前向きに検討したいとの事
であった。

(尚、医師会の要望額は手技料として6千
円)

②休日華夜診療について

各自治体間に、その報酬額にかなりの差
があり、特に東部地区が低額である。その
為か従来額の確保も困難であり、実施医療
機関の減少は華夜体制に支障を来しつつ
ある。市町村側にも色々の事情がある様だ
が、その善処方を考慮してくれた。

③ヘルス事業について

基本健康診査については、血圧、検尿、
貧血検査、肝機能(GOT、GPT)総コレ
ステロールが行われて居るか、その他に心
電図、眼底検査、血糖検査等を追加してい
る所もある。この検査項目を西多摩地区で
同一水準に行われるべく要請した所受入れ側
の医療機関の対応が充分であれば可能の様
に思われた。 63.7.20 以上

東京都医師会学校医会第15回評議員会並びに第15回定時総会

東京都医師会学校医会第15回評議員会並びに第15回定時総会が63.6.9 東京都医師会に於いて開催された。

昭和62年度事業報告がなされたあと下記議事につき審議された。(議案の詳細は西多摩医師会へ文書で既に報告されている)

第1号議案 昭和62年度決算に関する件

(監査報告)

〃2号〃 昭和63年度事業計画に関する件

〃3号〃 昭和63年度予算に関する件

〃4号〃 昭和63年度会費賦課徴収に関する件

以上 原案どおり承認。

63年度事業計画に関しては下記のことが

前年度と主に異なるところである。

○都立高校の心臓検診に心電図検査が本年度より公費負担となったが、これを機会に検診内容の向上と都立高校学校医の組織化に寄与する。

○学校医の退職規定を検討する。

○「学校医の手引き」を改定する。

○エイズ問題、B型肝炎問題の取り扱いは地区医師会と連絡をとりつつ慎重に進める。

また63年度都医師会学校医会会費は年額1人当たり4,000円で地区医師会長に委託して6月末日までに徴収する。

学校医部 湯川文朗

S63.6.21 理事会提出

産業医部報告

昭和63年6月21日

去る6月13日付きで、青梅労働基準監督署に、西多摩地区管内の50名以上の事業署名とその業種、及び各事業所の産業医の氏名と所属医療機関所在地または住所を問い合わせた。

6月20日、労働基準監督署の山口氏より電話で下記の通り回答があった。

- 1.東京都で把握しているものが多い。
- 2.「事業所名鑑」で該当事業所に下線をひき、近日中にコピーして郵送する。
- 3.62年度の上記資料によれば、該当事業所は西多摩地区に
 - A. 243事業所

B. うち産業医の選任あるもの、約200

C. 産業衛生管理報告のあったもの、約160

4.産業医氏名とその所属医療機関所在地または住所については、毎年変わっており、特定し難い。

かつ、個人的な問題が含まれる可能性があり、容赦願いたい。

おわりに、安全基準の法改正やメンタル・ヘルスの重要性も高まり、是非、地元医師会と関係各位の一層のご協力をお願いしたい。

以上 (文責 井村)

西多摩地区救急業務連絡協議会設立について

西多摩地区救急業務連絡協議会設立準備会が7月7日、西多摩医師会館講堂にて開かれました。出席者は、青梅、福生、秋川、奥多摩各消防署の警防課長及救急係長等8名、青梅市立総合病院、福生病院、阿伎留病院の院長、奥多摩病院の事務長、及救急医療機関の

管理者9名、計17名で、約一時間協議しました。その結果、救急連絡協議会規約に賛成し、全員が、設立総会を開くことに同意しました。準備会は、福生消防署の小林係長の司会で、医師会を代表して、宮川救急担当理事の挨拶、消防署を代表して、青梅消防署の佐々



木警防課長の挨拶があり、自己紹介の後に、現在までの経過説明、及び連絡協議会規約の説明がありました。その後、協議会設立総会は、救急の日にちなんで、9月9日午後6時より、西多摩医師会講堂で開催することになりました。

尚会費は、毎月千円位が妥当であるということで内諾を得ました。この席上、青梅市立総合病院の星院長先生より、今までの救急連絡会はどうなるのかという質問がありました。この問題については、この協議会が、救急隊と医療機関との連絡の窓口になるということでした承されました。又会員は医療機関のみで消防署側が参加しないのはどうかという質問が菅井院長先生よりあり、会費の内容や会の主旨等を説明し、原案通り了承されました。

その後、フリートーキングに移り、その中で、最近D O A (Death On Arrival)が増加の傾向にあるということが話題になりましたが、救急隊側より、隊員は独自の判断で「死」を確認出来ないために、医師の診断を受けなければならないので、D O Aが多くなるという説明があり、目白第二病院の辻院長先生より、そのために病院の救命率が低下しても、やむを得ないことで、あくまでも死の判定は、医師にまかせるべきであるというコメントがありました。又救急隊側より、重症患者の病院転移搬送には、できるだけ医師の救急車同乗を希望する旨発言がありました。

前述しました様に、西多摩地区救急業務連絡協議会の発足に当たり、会員の皆様がこの主旨に賛同され入会されることを、希望する次第です。尚同協議会規約(案)は下記の通りです。(文責 宮川栄治)

西多摩地区救急業務連絡協議会規約(案)

(名称)

第1条 本会は、西多摩地区救急業務連絡協議会と称し事務局を会長の所在する消防署に置く。

(目的)

第2条 本会は、西多摩地区の救急病院並びに救急診療所、(以下「救急病院等」という)等救急関係機関と消防署とが連携を密にして、救急業務の適正化、円滑化を図ることを目的とする。

(会の事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業並びに研究を行う。

- (1) 救急病院等と救急隊との連携、協力体制について
- (2) 多数傷病者発生時の関係機関との連携対策について
- (3) 伝染病等特異救急事故対策について
- (4) 救急業務に関する研究会等の開催
- (5) 医療機関従事者並びに救急隊員の表彰
- (6) その他本会が必要と認める事業

(会員)

第4条 本会は、西多摩地区に所在する次の会員で組織する。

- (1) 救急病院及び救急診療所の管理者
- (2) 救急協力病(医)院の管理者
- (3) 西多摩医師会が推薦する病(医)院の管理社

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 監事 2名

2. 会長、副会長及び監事は、総会において会員の中から選出する。

3. 前項の役員の任期は2年とする。ただし補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

役員の大任は妨げない。

(役員の大務)

第6条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

2. 副会長は、会長を補佐し会長不在の時、その職務を代行する。

3. 監事は、本会の財産及び業務の執行の状況を監査し総会に報告するものとする。

(顧問及び参与)

第7条 本会に顧問及び参与を置くものとする。

2. 顧問は、西多摩地区各消防署長及び西多摩医師会長の職にある者とし会長が委嘱する。

3. 顧問は、総会、役員会、連絡会及び研究会に出席し、会の重要な事案につき会長の諮問に応ずる。

4. 参与は、西多摩地区の各保健所長及び同地区内の各消防署警防課長とし会長が委嘱する。

5. 参与は、会長の要請により会議に出席し、所管する事案につき会長の諮問に応ずる。

(会議)

第8条 本会の会議は、総会、役員会、連絡会及び研究会とする。

(総会)

第9条 総会は毎年、事業年度終了後遅滞なく開催するものとし、臨時総会は必要に応じ会長が招集し開催する。

2. 総会の議長は会長とする。

3. 年度終了後に行う総会は次の事項を審議決定する。

(1) 事業計画及び報告に関すること。

(2) 会の経費に関すること。

(3) 役員を選出に関すること。

(4) 規約の変更に関すること。

(5) その他必要事項

(役員会)

第10条 役員会は、必要に応じ会長が招集し開催する。

(連絡会及び研究会)

第11条 連絡会及び研究会は、事業計画に基づき定例的に開催し、臨時連絡会は、必要に応じ会長が招集し開催する。

(会の経費)

第12条 本会の経費は第4条の会員の会費及びその他の収入をもって充当する。

2. 会費の細部については、役員会が定める。

(年度)

第13条 本会の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(付則)

第14条 この規約は昭和 年 月 日から適用する。

医政連報告

都医政連支部庶務担当役員及び事務長連絡会
昭和63年7月4日 PM. 2時

東京都医師会

来年は参院選都議選が行われる年であり、これに対する対策を急がねばならぬ時がきているということで上記連絡会が開催された。後藤副委員長の挨拶、青木理事より連絡事項の説明が行われた。都医師政治連盟においては、地方区原文兵衛氏。全国区大浜方栄氏を推薦することになっている。全国区においては、比例代表制度がとられているので、大浜氏の自民党内でのランクを少しでも上げるために各地区医師会でも活発に活動していただ

きたい。比例代表制での当選順位の決定は党に対する貢献度により左右されるわけであり、貢献度のうち最大のものは候補者が獲得した党員の数である。前回のS60年の宮崎議員のときと同様に活動していただきたいとのことであった。

次で各地区医師会毎の、S63年自民党員獲得目標数は317名である。

都議会議員については、推薦するか否かは各地区医師会で決定してもらいたい。地区での推薦があれば、都医政連においては、これにより推薦をきめるとのことである。

又、医政連の会費について経理担当者より

報告がなされた。通常会費及び日医連負担金については、年々約2%位づつ収納率がよくなっている。しかし未だ500万円以上未収となっているところが、6医師会あり合計で7,500万円となっている。これらの未納金については計画的に精算するようにしていただきたい。

以上のような都医政連よりの報告及び依頼であった。

西多摩医政連においては、各ブロック毎に、ブロック長にお願いして、自民党員獲得運動をすすめていく方針である。

大嶽栄二

西多摩地区小・中・高校眼科校医実態調査及び今後の眼科検診について

真 鍋 勉

西多摩地区眼科校医に関する調査報告は、既に会報162号において後藤伸先生が報告されているが、今回は、新たに高校11校を加え再調査を行った。その結果は表1のとおりである。

再調査の目的は、実態を踏まえたうえで、検診後の眼科受診の一時的混雑を解消する方法を生み出さんが為である。

6月14日、各ブロックを代表し、西部から後藤先生、南部から阿伎留病院の馬詰先生、東部からは真鍋が出席し検討した結果、

1) 学校における視力検査は、日本眼科医会が行っている4段階方式(表2)を徹底させる。

2) 視力低下者の眼科受診は、従来の1.0未満から0.7未満に変更する。

3) 以上の2点は、64年度から実施することとし、校医は無論のこと、検診を依頼している大学及び病院、西多摩地区各市町村の教育委員会、各高校に協力を要請する。という結論に達し6月21日の理事会に真鍋が報告した。

統計的に裸眼視力0.7~1.0未満の屈折異常者数は、小、中、高とも約10%程度と見なされ、よって、以上の方法は眼科受診率を減じ、且屈折異常者の検出に対しても影響は少ない対応策と思われる。

表1 西多摩地区小・中・高校眼科校医一覧 (昭和63年6月1日 現在)

	青 梅	奥多摩	福 生	羽 村	瑞 穂	秋 川	五日市	日の出	檜 原	計
小学校数	18	4	7	7	5	8	4	3	2	58
生徒数	9,918	697	4,202	4,232	2,762	4,238	1,756	1,605	223	29,633
学校医	後藤 3 東医大15	東社協 (斉生中央)	東医大	加藤 4 真鍋 3	東医大	阿伎留	野口 1 阿伎留3	阿伎留	三木	
中学校数	10	3	3	3	2	4	2	3	1	31
生徒数	6,098	400	2,312	2,563	1,659	2,657	1,058	1,681	153	18,581
学校医	東医大	東社協 (斉生中央)	東医大	加藤 1 真鍋 2	東医大	阿伎留	野口 1 阿伎留1	阿伎留	三木	
高等学校数	3	1	1	1	1	3	1			11
生徒数	2,894	79	1,200 208	1,404	683	3,819	560			10,847
学校医	後藤 2 加藤 1	未定	加藤	加藤	押切	押切 2 真鍋 1	野口			

表2 学校における視力検査の4段階法(日本眼科医会による)

1.0の視標が3ケ中2ケ判別できた場合 (裸眼視力1.0以上)	1.0 可 または A	学業に一応支障なし
1.0の視標が3ケ中2ケ判別できなかったが、 0.7の視標が3ケ中2ケ判別できた場合 (裸眼視力0.9~0.7)	0.7 可 または B	学年によっては学業に支障あり、 学校医指導の必要あり
0.7の視標が3ケ中2ケ判別できなかったが、 0.3の視標が3ケ中2ケ判別できた場合 (裸眼視力0.6~0.3)	0.3 可 または C	学業に支障あり、医師の診断 の必要あり
0.3の視標が3ケ中2ケ判別できなかった場合 (裸眼視力0.2以下)	0.3 未 満また は D	就学に支障あり、医師の診断 の必要あり

備考

1.0可、0.7可、0.3可、0.3未満、またはA、B、C、Dの表現のいづれを採るかは各地区の判断による。

ハーフ・エッセイ

堤 次雄

漏レシヤン

或る宴席でのM先生とS先生の会話から。
そばに居た私は専らの聞き役であります。

「あのなあ。S先生、避妊の手術は今は殆ど
ヴァギナルでやるですか」

回りが、がやがやと騒々しいのでS先生は一
般的な避妊法の質問と思われたようです。

「今はね、一番多いのは何たってゴム。ゴム
ですよ。次にピル。だけどね、ゴムが一ぱん
失敗例が多いです」

M先生は活力に溢れた方ですが、今はもう、
人畜無害の年ごろになっておられる。

だが、どうして、持前の探究心は少しも衰
えず若い時のまま。特に避妊に興味をお持ち
のようであります。

「安ものにはピンホールがあるんだろうな。
それともな、やっとうちに破れるんだろう
かな。当人達が望まんににさ、間違っでけ
たんだから、ええのが出てこんと違うだろ
うか」

「そんなこともないですよ。時にはいいの
もできます。これを漏レシヤンという」

S先生はすました顔で答えました。

私は、マダム、モレシヤンにひっかけたS
先生のしゃれに思わず「うまいッ」と声をか
けたのであります。

違 い

正月、房総に行った時のことである。

その日は暖かな浜風がふき、もう春の陽気

であった。

とあるバス停で私が乗ったバスに、若い父
親と5才くらいの男の子が乗ってきた。

たぶん冬休みに帰省していた親子であろう。
少し腰の曲ったお婆さんが見送りに来ていた。

父親がバスの窓を開けると男の子は窓から
身を乗りだして、

「お婆ちゃん。生きててね。また来るからね」
と大きな声で言った。

バスの乗客は、可愛いなあ という顔でく
すくす笑っていた。

お婆さんも にこにこして手を振ってこた
えていた。

孫のこの可愛い挨拶にお婆さんは とても
死ぬわけにはいくまい。

お婆さんが、若し大人から、「お婆さん、
生きてて下さいね、また参ります。では、さ
いなら」と同じ挨拶をされたとする、お婆
さんの受とり方は違っているかもしれない。
にっこりなんてとんでもない 顔中しわし
わにして、「あたしに何ぞ不吉の相がでてる
のかしら、あいつ、あたしの臍くり狙っとる
のと違うだべか」と逆に受けとり不快な感じ
をもつかもしれん。と私は思うのだが、どん
なものだろうか。

男の子の「生きててね」の言葉の使い方は
何かおかしいのだが、やはり一ぱん適切な言
葉に思えるのである。

この場合の受けとる感じの違いは、子供の
天使の心と、大人の濁りのそれとの違いから
だろうな。と私は思ったのである。

銷夏雜詠 小泉新策

いつまでも 今年はつゆの あげやらす
洪水含みの 季節のつづきて

崖崩れ 山の崩壊 警戒さるる
慮外の災厄 来たらんおそれて

政界は 税改正に 狂奔す

真剣国民に 是非を求めよ

余りにも 政策の改変に 昏迷す
時間をかけて 真を問うては

報道界の「優遇」の字句に 困惑す

根源の理念 知らざればなり

特別措置 施行の真相 知らずして

優遇税制 かたるもおろかし

医界には 事業税よし 優遇税の

特別措置も 取り除く又よし

斯くなれば 理念は医業も 企業なり

スーパー目途は 気楽にてよし

なれど事実 医業は企業と 異種のもの

着々充実 撓ゆまざるべし

市町村医師会紹介シリーズ

秋川市医師会

思い付くままに秋川市医師会の日常行っている事業の機能面をご紹介します。

最近では自治体の行う保健衛生事業が多くなり、所属する我々医師会員の仕事も年ごとに増えこそすれ、減少することはない。

必然的に医師会と自治体との密接な連携が必要となってくる。秋川市における連携の一例をあげると、秋川市医師会のたずさわる自治体事業の検討には、健康課の責任者が必ず出席して趣旨説明を行い、お互いに納得のいく話し合いが行われている。そして実行に移されるのであるが、更に実行→再検討→調整→取り決め→実行→再検討となる。この繰返し作業は極めて大切である。医療現場での知恵が即座に検討、実践に移され、自治体事業は円滑に行われることとなる。そういう意味では柔軟性のある対応ができていると言えよう。

秋川市医師会の歴史はながい。古いことは知らないが、昭和42年頃の集まりでは、サマーランドの下の割烹旅館野菊に出かけ、そこでいろりを囲んで串に刺した川魚を焼きながら酒を汲み交わし、親交を温めたり、福生の深沢へ出張したのを思い出す。

前会長の米山秀雄先生の時代から新装一転、毎月秋川市医師会例会が開催され、これまでに総会6回、例会58回をかぞえている。

会は夕食会をかねておこなわれ、医師会の審議案件のほかにも、会員の遭遇した最近の問題や近況報告なども自由に報告され、日常の医療面に益することが大きい。

秋川市健康会館には、写真のように休日診療所が開設されており、休日並びに準夜診療が行われている。初代所長は故瀬戸岡進先生、現在は第二代所長として米山秀雄先生が就任している。

休日診療ならびに準夜診療は、当番制とセンター方式とを折混ぜた複合方式であるが、会員全員が参加している事実は、全会員の協力体制も特筆されるが、両者がうまくかみ合っていることもその要因であるといえよう。さまざまな困難を克服しながら、恵まれない条件下で実践する我々医師に対してすくなくとも時間的、身体的にあるいは医療実践上に無理のかかる方式は避け、従事しやすい方式が最良であった証左であり、長続きする方式であったと言える。

この健康会館の二階の一室は早急の会合を開く際に開放され、また昼間の短時間の話し合いのときに使用されている。

迅速に周知し、連携し、対応しうることは、直接協議性のもたらす利点であり、取り決めの硬直化を防ぐことができているといえる。小さな自治体の医師会は身のこなしが、巡洋艦なみにきくとはいえる。

その点、航空母艦は分化した機能の統合が

ままならぬ欠点を持つ。

今後、秋川市医師会はこの利点を活かして益々地域住民の保健医療福祉の増進と発展に寄与できると考えている。

ここで記念すべき昭和61年のある日の記録を再現する。

昭和61年7月14日 第40回秋川市医師会例会開催（会長米山秀雄先生）

広報『あきがわ』に市民向けの医療保健に役立つ欄（健康メモ）を設ける件。原稿は15×15誌の2枚程度とする。掲載原稿は予め秋川市医師会に報告する。

8月から秋川市医師会として広報に掲載を開始する。

例会終了後、6月16日開催の第39回秋川市医師会例会で決定した。第1回秋川市医師会勉強会開催『吐血と下血について』講師 故瀬戸岡 進先生。

秋川市医師会勉強会は今月で20回を迎えるが、長老から順番に全会員が話題提供者となつて勉強することになっている。ときには順不同のこともある。勉強会のテーマと講師名を列挙すると次のようである。

- 第1回 『吐血と下血について』
故瀬戸岡 進先生
- 第2回 『ホルター心電計』 米山秀雄先生
- 第3回 『老人と痴呆』 葉山 侃先生
- 第4回 『忘れ得ぬ患者さん達』
平林信隆先生
- 第5回 『糖尿病の外来診療』 大塚 渉先生
- 第6回 『妊娠と糖尿病』 秋山静夫先生
- 第7回 『胃癌について』 菅井義久先生
- 第8回 『熱性痙攣』 横田 博先生
- 第9回 『脳死及び臓器移植についての中
間報告』 故瀬戸岡 進先生
- 第10回 『腔内異物』 齋藤信幸先生
- 第11回 『脳死』 清水章三郎先生
- 第12回 『抹消性顔面神経麻痺』奥野 仁先生
- 第13回 『精神分裂病の薬理』 植田 稔先生
- 第14回 『腹膜透析について』 田代 洋先生
- 第15回 『LSD体験について』 井村進一先生
- 第16回 『アスピリンから』 米山秀雄先生
- 第17回 『少量抗生剤長期間服用療法』
葉山 侃先生

第18回 『色即是空』 平林信隆先生

第19回 『冠疾患とアルコール』大塚 渉先生

第20回 『下腹部Tumor』 齋藤信幸先生

ところで広報『あきがわ』に掲載する健康メモは秋川市民の健康教育を目的として全医師会員が協力して作成している。小学校6年生が理解できるようにとの条件を当初設けたのであるが、医学用語という隘路に阻まれ、現実には至難のわざである。掲載された健康メモをご紹介します。

- 61年8月号 『光線過敏症とは』
- 9月号 『みずむし』
- 10月号 『眼性疲労』
- 11月号 『子どものひきつけ』
- 12月号 『アルコール』
- 62年2月号 『やけど』
- 4月号 『アレルギー性鼻炎』
- 5月号 『指しゃぶり』
- 62年6月号 『鼻血』
- 7月号 『便秘』
- 8月号 『おとしよりのポケ』
- 9月号 『熱射病・日射病』
- 10月号 『頭痛』
- 11月号 『子どものハゲ』
- 12月号 『小児の多動』
- 63年2月号 『扁平足』
- 3月号 『臭覚障害』
- 4月号 『鼻づまり』
- 5月号 『熱でひきつけたら』
- 6月号 『小さな赤ちゃんの発熱』
- 7月号 『不眠症』

秋川市の小中学校保育園の校園医、福祉事務所の嘱託医、国保運営協議会、教育委員会、環境保全審査会、社会福祉協議会、夏季のプール事故に対応するための委託医療機関など、老人保健法にもとづく事業や予防接種事業のはかに多くの仕事をこなしている。

秋川市医師会の業務が円滑に行われているのは、ひとえに先生方の自己犠牲の上に成り立っている医療人としての義務と良識によるものと信じている。

意に満たない所ありとすれば、私の知識不足のしからしめるものでありお詫びします。

文責 植田 稔

新人紹介



氏名 林好男
大正15年12月1日生
長野県飯田市出身。
昭和26年東京医大卒業、
10年程横浜医大病理学
教室にて勉強し、昭和
37年より八王子にて外
科医院を開業しました。

しかし昭和47年突如として病魔におかされ半身不随となるため閉院し、3年間療養に専念した結果どうやら動けるようになり勤務医となりました。昭和62年7月1日より日の出ヶ丘病院の管理者となるため医師会へお世話になっております。尚軽い左片麻痺があり病弱な身体ですから何かとお世話になる事が多いと思います。よろしくお願ひします。

趣味はマージャンだけで他の事は一切やめました。

この度、西多摩医師会に、入会させていただきました。

東京女子医科大学卒業後、産婦人科を専攻いたしました。結婚後、皮膚科に転向いたしました。

一昨年より、主人が、産婦人科を開業しており、隣接して、皮膚科を開業いたしました。

家族は、主人と二人だけです。今までは、二人で、海外旅行に行くのが、楽しみでしたが、これからは、あまり出かけられなくなりそうです。

今後とも、御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

尾形彰子



写真は、昭和59年11月、アテネにて。

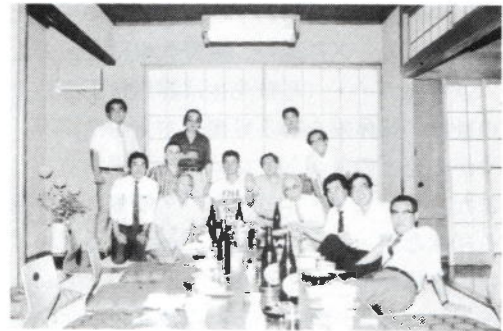
ブロックだより

羽村医会 2年ぶりの納涼会



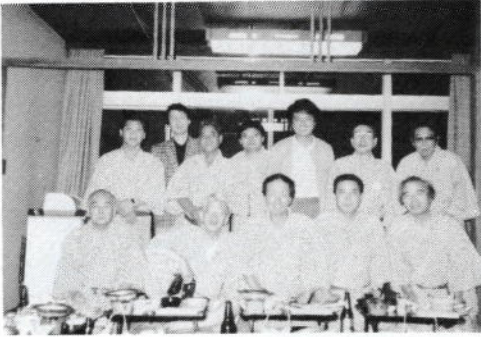
羽村医会は、2年ぶりに7月9日納涼会を行った。企画及び幹事は横田先生と小生が担当、冷えたビールでナイター見物というプランで、はじめ東京ドームを予定したが、まとまった枚数の券が入らず、結局西武球場で西武-南海戦を観戦することになった。

当日は朝から大変に蒸し暑く、午後4時半の出発時にも日中の暑さがたっぷり残っており、暑気払いには絶好のコンディションとなった。球場のシートに腰を下ろすやいなやプレーボール、私達も一緒にビールでインプレイ、清原、秋山の大きなホームランをさかんに杯を重ね、しまいには売り子嬢を指名するありさま、これ以上この場にいるとなにやらとんでもない事が起こりそうな気配を感じて、試合半ばではあったが、次に予定していた堤新亭に席を移した。



堤新亭では西武の大久保選手が飛入りして会大いに盛り上がり、西武の勝利を告げる花火のおまけまでついたが、近くのホテル街の灯が怪しく揺れ始める頃、お互いにまたの機会を口にしつつ、名残惜し気にバスに乗り込んだのであった。(文責 真鍋)

医師会旅行（福生市医師会）



去る6月25、26日猿ヶ京温泉—群馬大学付属病院—老人福祉センターへのバス旅行がありました。土曜午後2時福生市役所を雨の降りしきるなか出発、パチン、パチンと缶ビールの栓ぬき音、一口二口喉を潤わせたところで宮川会長のいとも小粋なスピーチ『～～～一晩オカアチャンと離れることになりませんが、～～～すっかり元気になられた上田先生の全快祝いも兼ねまして』と折角お上手に結んだのに『カーチャンと離れてどうにかなりそうなのは、会長だけだよ』と若手の生意気なブチコワシ野郎約一名。

当初、ビールのつまみは、中根健康管理課長の自家製塩漬け胡瓜まるかじりで美味美味、広川福祉部長の真面目なごあいさつもそのあたりでありました。内山大先生は、酒人林副会長の止むをえぬ欠席で、バラバラな一行のトリマトメ役を人一倍酒精度をこなしながら気配りの連続でご苦労さんでした。

いやな渋滞にもあわず埼玉県から群馬県とバスはスムーズに進行、星野先生は上田先生に道中のガイド（星野先生は群馬県出身）その後、比体重を誇る好漢玉木先生が鎮座。やがて殆どの人がトイレ休憩を希望することになりサービス・エリアにバス停車。小生余り尿意なかったが、先行きで迷惑するといけないと思い連られ小便をしてしまいました。そこでつぶさに同行の方々の放尿後の手洗い状態を観察すると約半数は、水道の蛇口に手を触れることなかったようでした。ホロ酔い気分のせいなのか？その省略行為をバスに戻ってから考えてみました。自分のものを掴みだすそしてもとにおさめるのであるから、わざわざ手を洗わなくても良いのではないか？医

学的にはどうか？下らないことに頭を使ってみました。世の中の人はいったいどうしているのか？男性小用後の手洗率などというデータ？

猿ヶ京温泉に着きやっと一息、午後の診療をシッカリ済ませてから参加の勤労青年医師2名の到着を待ち、直ちに宴会開始、2時間パートの仲々の品性ある空々風芸者さんをお交じえて飲めや唄えやそのなかでも庄巻は池田先生の素晴らしいマジックの数々、星野先生の男女の微妙な気持を織りこんだ昔の粹筋でしか聞かせていただけないような大変結構な都々逸、上田先生のジングルに対しての程良いさすがと思わせる軟派行為などなど……。これだけでは欲求不満とばかりに階下のカラオケに参集、W君はチャコの海岸を三度も唱いあげるといふ惨事（L・Dのポルノ風画面が気に入ったらしくて）他の先生方はかなりの程度に正調の模様でした。

更にメタ癖のある健康な二先輩、宿から外出し数軒を回遊してきた模様で、拳句の果てにどちらがモテたとかモテなかったとかお互いに言い合う始末でした。その一先輩は、気持よく高軒で寝ているミスター会長の鼻をつまんで起してしまい、また折角早目に寝た上田先生は、余りの騒々しさに覚醒して同室の六名と共に又々例のものを冷蔵庫から取り出し、驚いたことに紫煙まで吹き上げて夜更けまで過日の福生医師会のお話など……。

翌日、全員旺盛な食欲で朝食を済ませ、群大病院と前橋の老人福祉センター（しきしま）にて一生懸命真面目に研修してまいりました。センターの入口で群大ギャルが自律神経症アンケートをしまして人一倍そちらの神経が大丈夫と思われる内山先生が真顔で設問50に答えられていたのを見掛けましたが一体どういう事なのでしょう？長くなりますので無事午後四時頃に福生に着きましたことをお知らせしてクダラナイ綴り方を終わります。付記）明るいうちに戻りましたのでギネの二先輩はなじみのお店を早く開けさせそこでチョイト一杯やったとか？この世にも極楽はあり風呂あがり（ホテル見晴館のマッチ箱より）
逐一書き過ぎて村八分になりそう（道又記）

- 地方公務員の公務傷病取扱に関する診療費協定料金表
- 青梅市立総合病院7月分宿日直表

- 青梅市立総合病院CPC開催案内
- 学術講演会案内
- 杏林大学学術講演会案内

同好会だより

第135回 西多摩医師会ゴルフ大会

昭和63年4月29日 立川国際草花コース
天候 風雨

氏名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット	ランク	新ハンデ	
立花	45	52	97	17	80	優勝	14	
江本(浩)	42	43	85	5	80	2	4	BG
大河原	56	51	107	23	84	3	22	
林	48	45	93	7	86	4		
江本	53	48	101	9	92	5		

出席者が少数のため、ゴルフ部定時総会は次回に延期した。

第136回 西多摩医師会ゴルフ大会

昭和63年6月19日 立川国際草花コース
天候 曇

氏名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット	ランク	新ハンデ	
今川	50	42	92	23	69	優勝	18	
片平	54	52	106	36	70	2	28	
宮川	38	41	79	8	71	3	10	BG
杉本	49	46	95	20	75	4	18	
松原	46	46	92	17	75	5	18	
林	40	42	82	7	75	6	11	
江本	46	47	93	9	84	7	18	
丸茂	61	61	122	33	89	8	33	BB
立花	46	59	105	14	91	9	16	
内山	42	46	88	16			16	奥多摩

- 総会議事
1. 会計報告承認
 2. 新役員選出
部長 内山 大
幹事 宮川栄次 林 実
会計 江本虎雄
 3. ハンデ改正
 4. 今年度より年会費5,000円を徴収する。 以上

硬式テニス同好会の連絡

来る8月24日(水曜)27日(土曜)両日もナイターで行います。

場所 福生市武蔵野台コート

電話 0425 (51) 4751

時間 PM 7:30~9:30

先月は予定した二日も雨でプレイ出来ませんでした。しかし発足会は、堤先生の『乾杯』、某所にて、うどん、ジュース、生ビールなどで喉を潤し歓談しました。(参加人数役10名)

今月は、コート・サイドでスポーツドリンクでも飲みながら再度乾杯も結構です。是非お誘い合せのうえ楽しい夏の一夜を過ごしませんか。BENちゃんこと眞鍋先生が記念写真を撮ります。

みちまた

編集室より

当分の間、会報の校正係を軌道にのるまで毎月少々気合いをいれてやってみます。会報グレード・アップにご意見をいただけるようお待ちしております。

『あとがき』は編集委員が交代して担当しますが、会報の内容と関係なく自由に(関連しても結構)書きたいことを書く個性発露のコーナーとしようとの編集委員会で決まりました。その為、ご執筆いただいた先生に礼を尽くしかねる場合もあると後から考えまし

た。その点気懸かりです。

先月号のミスプリント

P20 Center, - Center.

P21 経険者 - 経験者

P25 MB機器 - ME機器

お詫びします-P21の3)の明文化という語句を最近の10年くらい続いていると訂正いたします。認識不足で大変失礼いたしました。申し訳ありません。

みちまた記

あ と が き

私が、会報編集委員となり早くも五年目（三期目）になりました。今年からは、会報編集部が理事会の広報部に所属する事になった為理事の先生方が多数御参加下さり、医師会事業に経験が浅い私にとっては大変心強い次第です。今までの様な理事会報告のまとめに苦労したり、原稿の集まりが悪かった事等を考えますと、内容はより充実してくるものと思われれます。又、編集委員で活躍されている、道又、真鍋両先生が中心となってテニス同好会も発足しましたが、私も積極的に参加させて頂き、日頃の運動不足を解消したいと思っています。先日も青梅医師会福祉部として、麻雀大会を企画、実行致しましたが、医師会役員の方が数名参加と、何をやっても参

加者が決っている様で、少し寂しい気分でした。次回はもっと楽しめる企画をしていきたいと考えておりますので、多数の御参加をお願いします。

さて、医療に関して最近痛感している事ですが、在宅寝たきり老人の問題です。往診依頼がふえており、中でも動脈硬化又、循環器疾患等を基礎に持っておられる方でも、実際には足腰の弱さが原因で動けないケースの依頼の増加に困惑しています。今後、ますますふえるであろう現状にいかに対処すべき、医師会又地方自治体でも考え、対策を講じていかなければならないのではないのでしょうか。

小林杏一

昭和63年 8月 1日発行

発行所 (社) 西多摩医師会

東京都青梅市西分 3-103

TEL (0428) 23-2171(代)

会報編集委員 大嶽栄二

石井好明 栗原琢磨 小林杏一

真鍋 勉 道又正達 百瀬真一郎

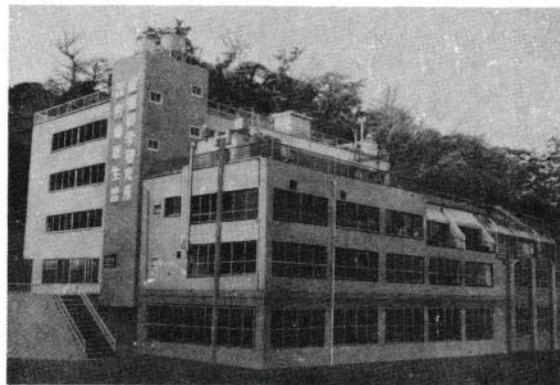
横田 博 渡辺良友

本号の校正は 道又 (0425-51-3626)

印刷所 マスダ印刷 TEL (0428) 22-3047

臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106
電話 045 (333) 1661 (大代表)
八王子市子安町3-17
電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
 - 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)
 - 関係医療機関 約 3,500ヶ所
 - 広範囲な検査内容
 - 内分秘学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
 - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査
- 1 都11県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致しています。

くらしの知恵と情報を
ホームバンクの埼玉銀行



埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)
東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)
青梅支店
奥多摩特別出張所 (TEL 0428-83-2515)

福生支店 (TEL 0425-51-1021)
村山支店 (TEL 0425-61-1211)
五日市支店 (TEL 0425-95-1311)
河辺支店 (TEL 0428-24-2401)
秋川支店 (TEL 0425-58-2611)